平成２５年度　第２回　四街道市庁舎整備検討委員会

平成２５年６月５日（水）
１０時００分～１１時４０分
四街道市役所新館５階第１会議室

出席委員　中野委員、池田委員、戸田委員、牟田委員、塚本委員、福井委員、小佐野委員、安井委員

事務局　武富副市長、岡田部長、大野次長、石橋課長、小林主幹、鈴木副主幹、嶋田室長、樋口技師、面田技師

（開会）

【事務局】　本日は公私ともにご多忙の中、平成２５年度第２回四街道市庁舎整備検討委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。
それでは中野委員長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
【中野委員長】　それでは、これより平成２５年度第２回四街道市庁舎整備検討委員会を開催いたします。
それでは議事に入らせていただきたいと思いますが、まず本日の会議の公開・非公開につきまして、「四街道市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき原則公開となっておりますので、公開とさせていただきます。
また、会議録の作成につきましても同指針に基づき作成するとともに、録音させていただきます。なお、同運用解釈に基づき発言者名については、明記するものとさせていただきます。
会議資料につきましては、「四街道市審議会等の会議の公開に関する指針の解釈運用基準」の規定により、傍聴人の閲覧に供するものとします。また、会議次第につきましては、配布するものとされておりますので配布したいと存じますが、委員の皆様の意見をお伺いします。いかがでしょうか。
【各委員】　異議なし。
【中野委員長】　それでは、本会議は公開とし、傍聴人に会議次第を配布することとします。事務局は傍聴の方がいらっしゃいましたら入室させてください。
【事務局】　２名いらっしゃいますので、ただ今から入室していただきます。
【事務局】　すいません。全部で３名です。

（議題）

【中野委員長】　それでは、議題に入りたいと思います。
本日の議題としましては、
（１）市庁舎の耐震化または建替えについて（庁舎耐震対策に関する方針（案））
（２）本館３階建ての安全性確保の検討について

（３）庁舎に求められる機能について
（４）その他
です。
　それでは、関連がありますので（１）市庁舎の耐震化または建替えについてと、（２）本館３階建ての安全性確保の検討について、事務局よりの説明をお願いします。
【事務局】　それでは、議題１、市庁舎の耐震化または建替えについてと、議題２の本館３階建ての安全性確保の検討についてをご説明いたします。
　まず、次第の次のページ資料１をご覧願います。資料１につきましては、庁舎耐震対策に関する方針（案）というものでございまして、これにつきましては本館３階建て、平屋、新館のそれぞれ改築及び耐震補強の方向性と並びにその理由につきまして明記してございます。読ませていただきます。
　１　改築及び耐震補強
　本館３階建て、Ｉｓ値０．２５、これにつきましては改築でございます。理由といたしまして、市庁舎耐震化優先度調査委託報告書により、震度６強の地震が発生した場合、大破以上の可能性が高い。耐震補強を行った場合、建替えに比べて一時的にコストは押さえられるものの、老朽化は解消されず、短期間の使用後に建替えが必要になること、また、耐震補強壁等により庁舎が一層狭隘化し、市民サービスの提供に支障が生じる。
　続きまして、本館平屋。Ｉｓ値０．７１、これも改築でございます。耐震補強を行った場合、建替えに比べて一時的にコストは抑えられるものの、老朽化は解消されず、短期間の使用後に建替えが必要になる。本館３階建てと本館平屋は、機能的に一体の建物として使用しているため、本館３階建てを解体すると玄関、市民ロビー、トイレ、空調の機能がなくなり、さらに来庁者の導線も複雑化し、市民サービスの提供に支障が生じる。
　続きまして、新館。Ｉｓ値０．６０、これは耐震補強でございます。市庁舎耐震化優先度調査委託報告書、費用対効果等により耐震補強と大規模改修を行うことによって活用する。
　次のページでございまして、２番といたしまして庁舎の立地でございます。新館、保健センター及び福祉センターとの一体利用の観点から現庁舎敷地において整備するものとする。
　３　本館改築までの措置。本館３階建ては、Ｉｓ値０．２５であり、安全性を確保するため、靭性型補強工事（ＳＲＦ工法（繊維状の補強材を巻き付けること））を実施し、地震発生時における柱の崩壊を防止することにより、現状どおり事務室として使用する。本館平屋、新館についてはＩｓ値０．６以上であることから現状どおり使用する。
　４　庁舎整備。別途に定めます「（仮称）庁舎整備基本計画」により整備を行うものとする。
　続きまして、３ページのＡ３の縦長の「本館平屋」の整備方針の比較検討というのを図で表してございます。一番上の左が現状の建物の配置となっておりまして、その右側が新築中ということになりまして、下に移りまして左側が耐震補強した場合、これは１階平屋を耐震補強した場合と、右が３階建てと平屋を解体して改築した場合になっています。
　左側につきましては、平屋が残ります。先ほど申し上げましたけれども、平屋と３階は一体に使用されているものですから、玄関とか、トイレとか、機械室、電気室等がございまして、一番下の完成イメージから見ても入り口が２か所になるとか、ちょっと動線的に、

厳しいものとなっています。配置が分散化されるということで、敷地の有効利用といたしましては、平屋上部に活用されていない空間がある、アプローチも分離されるという図でございます。

右側の改築につきましては、3階と平屋がなくなりまして、玄関が１か所ということで、駐車場なども後々利用勝手がいいというイメージでございます。

これが平屋の整備方針の比較検討でございます。

それから次のページに移りまして、資料の２でございますけれども、新築している間に本館３階建て、Ｉｓ値が一番低いのでございますけれども、３階建ての安全性の確保に関する比較検討をしてみました。①から④までございまして、①につきましては１階、２階、３階を今ある駐車場にプレハブを作りまして、避難するという方法。

それから２番目につきましては、１階は警備員室とか、更衣室とか、あまり事務室がございませんので、そのまま利用は続けまして２階、３階をプレハブへ一時避難するということでございます。

それから３番目につきましては、３階の議会関係の諸室を文化センター会館棟の２階、３階へ一時避難するというところでございまして、１階はそのまま使い続けまして、２階だけがプレハブへ避難するというパターンです。

４番が先ほど申し上げましたけれども、１階、２階、３階をそのまま利用し続ける。柱にポリエステル繊維状のものを巻き付けて、いざ地震の時の倒壊の防止を目的にする工事を施工するという、これでやったからといってＩｓ値が上がる訳ではございませんので、倒壊防止ということで行われるということでございます。

この①、②、③なのですけれども、下に金額が明記してございますけれども、これはあくまでプレハブの建設費だけの金額でございまして、①、②につきましては引っ越し関係で６００万ほど、あるいは電話交換関係の移転で５００万ほど、合わせて１，０００万ほどが他に掛かるというところがございます。３番につきましては、その他に文化センターの使用料として、２階、３階を１年間借りたとしますと、利用料としてその他に７，３００万ほど掛かるというところがございます。

④のコストは５，０００万という数字が明記してある訳でございますけれども、これは全ての柱、３２本ある訳ですけれども、それを全てやった場合、単価的には３０万から８０万というところが確認できておりまして、その最高額の８０万で算定した金額になっております。またこれにつきましては、現在市原市で施工された実績があるのですけれども、まだ市の方ではどの柱をやっていいのかというところまでいっていませんけれども、雑駁なところでこのＳＲＦ工法が倒壊防止を防げるのではないかというところで算定してみた状態です。

先ほどの本館平屋の整備方針比較検討のこの絵的なものなのですけれども、真ん中に模型を作成いたしましたので、これを動かしてみますとより実感的なところがお分かりになるのではないかと思いますので、ご覧いただければと思います。

（模型を見てのやりとり　省略）

以上で議題（１）、（２）の説明を終わります。

【中野委員長】　はい、ありがとうございました。今、事務局から説明がありましたけれ

ども、今日みていただいてる資料１の１ページ目を見ていただきますと、基本的に前回までの委員会におきまして、本館３階建てを改築、本館平屋を改築、新館を耐震補強というような形で進めていこうといったような方針が決まったかと思いますが、今日は具体的にどんなふうに進めていくかといったような話になるかと思います。今のご説明に関しまして何かご質問、ご意見等ございましたら伺いたいと思いますが。何かございますでしょうか。

基本的には建替えるに当たって今の業務をどのように進めていくかといったようなことが今日の議題になるかと思いますが、先ほどの資料２のＡ３の折り込みがありますが、その中でいくつか案を事務局の方で検討していただきましたということになるのですが、その中で市の意向といたしましては、業務をやりながら、安全を確保しながら新しい建物を作っていくという方向で進めていきたいというような案かと思いますが、ご質問、ご意見あればここで伺いたいと思いますが。

【安井委員】　本館３階建てと本館平屋の資料１のところで、老朽化、これは耐震補強をやった場合にですね、一時的にコストは掛かるのだけれども、結局は古くなっているので短期間の使用後に建替えが必要だよというお話しなのですけれども、それでは具体的に短期間の使用後というのはどのくらいもつものなのですか。例えばこれでやった場合にですね。

【中野委員長】　以前にライフサイクルコストか何かで提示していただいたかと思うのですが、耐震補強をしてもあとその後どのくらい使えるかと……。

【事務局】　庁舎の寿命ではなくて建物の通常寿命というものがございまして、耐用年数を一応６５年として仮定した場合ですけれども、今までこの建物は４０年以上使っておりますので、残り１５年くらい経ちますと、また建替えの検討が必要となるというとこでございます。

【安井委員】　ごめんなさい。結局コストが掛かるというぶんではその辺まで考慮していただいているのですね。

【事務局】　はい、それは前回の調査で確認しております。

【安井委員】　分かりました。結構です。

【中野委員長】　他に何かございますでしょうか。

基本的には建物を使いながら補強して安全性を確保するというような方針については、ご賛同をいただけたかと思いますが、それについての具体的な案は今回はまだ出てきていないので、その具体的な案については次回までに提示していただくということになるのでしょうか、事務局の方は。

【事務局】　資料２にお示ししてありますとおり、事務局として４案ほど検討したので、この中では④のＳＲＦ工法、これが一番いいのではないかなと。いずれ改築して壊してしまう建物なので、多額な経費をかけて補強を万全にして残すというより、ちょっと私専門ではなくて分からないのですけれども、Ｉｆ値というのがあるらしいのですが、耐震性ではなくて、ある程度の倒壊の危険を抑える値のようなのですけれども、人命をとにかく救えれば、建物はある程度ダメになっても、いざという地震の時に人命だけ救えればいいのではないかという考え方の中でＳＲＦ工法が今のところは、これが一番いいのではないかということで、答申案の中にもお示しさていただいたというところでございます。

【中野委員長】　はい、今ので了解いただけますでしょうか。とにかくこのＳＲＦ工法と

いうのは、もともとはトルコ地震とかトルコに対して日本が救援するときに、地震に対して応急的に援助すると、地震に対して崩れないようにするために開発された工法になるのですね。最近では、日本でも利用されていっていることになるのですが、とにかく大きな地震が来たときに崩れないと、包帯みたいに繊維を巻き付けることによって、大きな地震が来たときにとにかくつぶれないようにする、といったような工法をイメージしていただければいいのですが、実際の耐震補強とは違って今の建物の強度が上がる訳ではない。とにかく大きな地震が来たときに壊れないといったようなことで、最近都心においても民間の建物についても使われ始めているというようなものです。だから実際この建物だと耐力が大きくなっている訳ではなくて、大きな地震が来たときに崩れないようにして人命を確保しましょうといったようなものになります。

やり方としましては、業務に差し障りのないように、例えば夜やるとか休みの日にやる、そういったような工法だと私は理解しておりますが、そういったような工法です。

【小佐野委員】　私もＳＲＦ工法については正にそのとおりだと思いますね。ただ資料４、４ページの②の１Ｆ利用でプレハブをやったときにも、プレハブを作って動かすという、移しちゃうんですね。だから移されたあとにもし地震があったとすれば、問題がありますよということですけれども、ＳＲＦ方式なら今のままで、要するに巻き付ければ、どれくらいの工事期間がいるかどうか分かりませんけれども、安全性は最小限にできるという、そういうイメージのことをおっしゃっている訳ですね。それは理解できました。それで委員長がご質問したことについて、今後スケジュールとかなにか、そういうことについては答えていないと思うのですよ。肝心なことを答えていないと思うのだけれど。

【事務局】　ＳＲＦ工法の補足と委員長のご質問にお答えさせていただきます。今イメージの中では柱を巻くというイメージは委員の方々に頭の中でイメージいただいたと思うのですけれども、その中でＳＲＦにつきましてはポリエステルの繊維を巻く工法になります。通常、大きいお寺とか神社の耐震補強でいきますと炭素繊維というものを巻く工法もございます。もう一つの中でアラミド繊維という繊維がございまして、通常、繊維で巻く工法は３つございます。あとプラスで鋼板を巻く工法でございますけれども、鋼板を巻くということは大変な作業になりますので、それは度外視して考える中で、やはり繊維関係の中で３つございます。我々が他市の事例を見たなかでのＳＲＦということで絞り込んでおりますし、また単価的にも安いということで絞り込んでおりますけれども、今後の作業につきましては専門の方へ委託をかけまして詳細に検討をしました中で、最小限の人命を確保するという中での最小の方法の検討を今後進めてまいりたいと思っております。その中で巻かないで最小の人命確保がもっと安くできることであれば、その方法についても併せてまた委員長、委員長代理のご意見も伺いながら進めていければと思っております。以上でございます。

【池田委員】　この方針で、この３階建てを使い続ける期間は何ヶ月くらいですか。新しいものを建てて、そしたら壊すのですね。その壊すまでの期間というのはどれくらいですか。

【事務局】　だいたい建てるまであと５年程度かかりますので、最低５年くらいと考えておりますので、それ以降に取り壊しを考えております。

【事務局】　スケジュールということなのですけれども、一番最初に大まかなスケジュールというのはこの会議の中でお示ししてあるのですが、それによると平成３０年に一応庁

舎が完成すると、新たな改築の庁舎が完成するというスケジュールになっております。これはスケジュール的に前後はあると思いますが、３０年に完成する予定でいるのですが、その間に当初お渡ししたスケジュールの中では、どういう工法になるかは分かりませんけれども、現在ではこのＳＲＦ工法で庁舎のある程度の耐震性というかＩｆ値を高めるような工事のスケジュールが入っておりませんでしたので、改めてそういうものを調整して、また新たなスケジュールを次回の会議ぐらいまでに、要するに旧本館３階建てのそういう工事、そういう検討も時間が掛かりますので、そういうものについてもスケジュールに組み込んで新たにお示ししたいと思っております。

【小佐野委員】　前回、副市長がお話になった駅前の教育委員会の建物の件ですけど、今回これに入っているか入っていないのか分かりませんけれど、入っていないのだと思いますよね。だから教育委員会の人たちがはいったときに、このスペースで間に合うのかどうか。移ったときに向こうをどうするのかというようなことも、これではまだ未確定なのですか、入っているのですか。入っていないとすればいつやるのですか。

【武富副市長】　今回庁舎の耐震対策に対する方針ということで、まず耐震について大きな方向をしっかりしておかないとその先の検討ができないので、まずは耐震に関しての方針を、その考え方をまずまとめたいというのが今回の庁舎耐震対策に関する方針案なのですけれども、それで耐震関係についていえば第２庁舎、駅前の第２庁舎は問題はないのですよね。という訳でここには含めてございませんが、今後この改築という方向が出れば、どういうものを作るかという検討に今後入っていただきますので、その際に第２庁舎も合わせようという議論はしていただきたいというふうに思っておりますが。

【小佐野委員】　その場合ですね、今までお示しいただいたそれだけのパターンによって金額が大体提示されていますよね。でも実際にこれを作るときにこれ以上のお金が掛かることになれば意味がないですよ、検討していたことの。ですから今までの予定の金額よりも、範囲内だったら我々納得しますけれど、例えば第２庁舎は売らないでそのままこっち乗っけますということで、施設は残るけれど金は掛かるというんじゃ、この委員会意味はないので、そこはしっかり……。

【武富副市長】　それは市全体の施設をどういうふうに有効活用していこうかという問題になりますので。

【小佐野委員】　そうじゃないじゃないですか。もし第２庁舎をこっちに移すということであれば、その代替物は売るか売らないかきっちりと決めてもらわないと、予算全体が狂っちゃうんですよ。

【武富副市長】　それは予算全体というか、まだ予算的なものは全く議論はしていないのですよね。

【小佐野委員】　ここで示された金額が皆さんが納得している訳ですよ。それで次に進む形なのに……。

【武富副市長】　示された金額というのは何をおっしゃっているのですか。

【小佐野委員】　決まっていないと思いますけれど、そういうことになるとダメですよといいたいのです。

【事務局】　第１回目の庁舎検討委員会の時に、優先度調査委託報告書、これもお示ししておりますけれども、その中には第２庁舎を移転して、新館の補強、今の案で予算的なものも入っております。ですのである程度このことについては織り込み済みの話をしておる

訳です。
【小佐野委員】　だからその金額で織り込み済みであれば、かなりの金額が上乗せされることがないということですね。
【事務局】　上乗せされる訳ではありません。
【小佐野委員】　ということで理解していいのですね。はい。
【塚本委員】　今は本館３階建てのことで検討していると思うのですけれども、そこに第２庁舎とかいろいろなものが入ってきてしまうとまた話がわからなくなっちゃって、一つ一つ区切りを付けて話さないと、全体的な話をしていると、全く前に進まないじゃないですか。それだったら第２庁舎も含むのであれば、消防署のことも出てきますし、本館３階とか、この棟を今やっていますよとかなんとかしないと、後からどんどんいろいろなことが出てきてしまうと、話が前へ進まないじゃないですか。
【事務局】　消防庁舎につきましても内部検討委員会で話をして、そのようなことをお話ししたかと思うのですが、消防については使い勝手というのでしょうか、１階に例えば消防施設が入りますと消防車が出入りするところに市民の方が出入りする場として使ってしまいますので、消防についてはこちらに移転することについては使い勝手が悪いし、また訓練施設も必要だということでかなりの面積が必要だということで、消防庁舎については折り合いがついておりません。第２庁舎につきましては、こちらに来るということで了解済みでございまして、そこはかなり模型でも大きいのですが平屋を改築しますとあそこは８階建てになります。ですのでそういう面積部分についてはある程度余裕を持って、ああいう形で計画しております。ですからこれから手戻りになる議論はないと考えております。
【小佐野委員】　第２庁舎は移ることになっているのですか。
【武富副市長】　それはあくまでも内部で検討している際に、前回も申し上げましたけれども、新しく庁舎を改築する部分があるのであれば、この際併せて第２庁舎も一緒にすることを、そういう方向の方がいいのではないかということを内部ではそういう検討をしておりましたということです。
【小佐野委員】　だから塚本さんがおっしゃっているのはそういうことですよ。決まっていないことを途中で言われるともう、ちゃんと決めたとおりにやってもらわないと後で困るでしょうと塚本さんおっしゃっているのですよ。
【武富副市長】　最初に私申し上げましたけれども、まず耐震の問題に絞ってきちっと方向を決めておいていただかないと、今後どのような庁舎を建築するのかという議論に入れないのですよね。今回は庁舎の問題を整理する大きな理由というのは耐震化にありますので、まずそこの方向をはっきりして、その後でないとどういうものを作ろうかという議論に入れないだろうということで、まず耐震化についての方向を今回しっかり定めてもらいたいというふうに思って庁舎耐震対策に関する方針(案)を資料としてお示しした訳です。そこの方向が決まれば、今後その次の段階としては改築部分、どういうものを作るのかという議論に入っていけるというふうに思っていますので、そういう意味で今回耐震化に絞って大きな方向を定めて、方向を決めていった方がいいだろうということで資料をお示ししています。
【小佐野委員】　そういう説明なら納得しますよ。納得しますけれど……。
【事務局】　先走って済みません。まず耐震です。
【安井委員】　この委員会で、先ほど資料２で４つの案が出ましたよね。完全封鎖１番、

２番１階利用、１階文化センター利用、ＳＲＦ工法。今日の一番のメインはこの中でどれをやりましょうかという話になるのですか。
【委員長】　そうなのです。
【安井委員】　そうですね。その中で、たまたまＳＲＦ工法を市側からいいですよという話だったのですね。当面に関してちょっとコストがいろいろまちまちなのですけれども、このコストダウンというのはベースどういうふうに我々は考えたらいいのですか。
【中野委員長】　先ほどもいろいろな話が出て、この資料を見たときに私もそのような印象を持ったので、例えば引っ越しの時にどのくらい掛かるとか、補強の時に電気関係がどのくらい掛かるとか、あるいは文化センターの費用がどのくらい掛かるかとか、急遽先ほど確認していただいたところがあるのですが、一応ここで示されたのはプレハブ建設費でどれくらい掛かる、一番最後に工事をするときにどれくらい掛かるかということだけを今出していると。ということで全体の金額は今分からなかったので、先ほど追加していただいたという話です。
　ということで１番と２番については、大体これに上乗せ１，１００万円くらいかかるだろうということですね。３番については年間７，３００万上乗せされるので、これは５年になると膨大なお金になりますよという話です。④につきましては一応工事費だけで大丈夫でしょうと。
【安井委員】　④の場合は上限ですよね。
【中野委員長】　いや、それは先ほども申し上げましたが、とにかくこれは一例として示されたもので、実際に構造的なコンサルが入って積み上げているわけではないので、私が先ほど質問したのは、そのことについて次回ぐらいまでに出せますかといったような話をした訳で、実際にその費用がこのくらい掛かると確定されている訳ではない。ただし、実際これからの運用としてこの施設をそのまま使い続けて、なおかつ安全確保をしてやるという方法に今日ご賛同いただけるかというのを確認したいと。
【事務局】　先ほどの中で食い違いがあると何なので、確認だけさせていただかないと、今後はコンサルへ委託する準備をするということになりますので､次回の委員会の中では、お示しはちょっと無理かなというふうに思います。方針はここまでということで、お答えはできかねます。
【中野委員長】　方針は今日決定していただくことにして、先ほどから話題に出ている、今までは耐震補強するか改築するのか新築するかで議論していた訳ですが、今は３階建てと平屋を改築するということになったときに、前回出てきた話題ですけれども、どうせ改築するのであればいろいろ議論したいと、それで内部で話がいろいろ調整されていると、そういったような調整についてはいつ頃までに調整が終わるのですか。どういった機能を盛り込んでいく。先ほどの教育委員会は持ってくるという話は決まっているようですが。その他に何か来るのか、来ないのかといったような質問があったかと思うのですが。
【武富副市長】　今回の庁舎耐震対策に関する方針の資料の中でも、最後に庁舎整備については別途定める庁舎整備基本計画により整備を行うということにしておりまして、今後この委員会で庁舎整備基本計画、それについてご助力いただきたいと思っているのですけれども、次回以降その計画の骨子的なものを提案しながらご審議いただきたいと思っております。
【中野委員長】　それでよろしいですか。次回以降に一応市の方向、方針などが出てくる

と。
【武富副市長】　市の方針ではないです。あくまでも作業というか、内部で検討しているだけのことなので、それを申し上げれば市の方針としては、この委員会の報告をいただいた上で最終的に市の方針をきめるということになりますので、市の方針はまだないのですよ。ただ市の内部で作業としてやっておりますので、その内部の作業で検討したことをこの委員会に資料として出させていただきますので、それを検討の上委員会としては、委員会の考えとして報告をまとめてもらいたいと、そういう考えです。それを受けて最終的には市で方針を決定するという段階になってきます。
【中野委員長】　よろしいですか、今の論点について分からないところがあれば。
【小佐野委員】　今プレハブをつくるとプレハブに移す費用が掛かります。人件費が掛かります。それから電話を移設するための費用が掛かります。移設するのだからそういう金かかりますね。過去に我々に示していただいて建設費は、そういう池田さんもさっきおっしゃっていたと思うのです、引っ越し費用入っていませんよね。それから新しくできた金額は外側だけなのですよ。中のものが入っているとか、要するに機能的なことを求めるのですが、結構金額掛かると思うのですよ。そういう金額がでてないと、いいとか悪いとか多分言えないと思うし、それ以外にスケジュール感と費用算出をしてもらわないといいか悪いか判定できませんので、それはお願いしたい。まあ、やってくれると思うのですが。
【事務局】　今の什器類から設備、全部事細かに積み上げた金額をお示ししないと判断ができないということですと、ちょっと……。
【小佐野委員】　そういうことではなくて結構握った金額があるではないですか。そんな細かい金額ではなくて、引っ越し費用はこれくらい掛かるでしょうと言ってもらわないと、一気に今の受付のやつをもう少し近代的なものにするとか、コンピューターを入れ替えるとかいう話はまた別になってしまいますね。だから壁紙だってちょっとランクの上のでやれば結構１億や２億すぐ掛かってしまうと思うのですよ、でっかい値段。そういう費用の中でどのくらいの上限を考えているのかというのが分かると我々としては判断材料としていいのかなと思うのですよ。
【事務局】　数字を申し上げてしまうとその数字だけが、あっ、いくらいったということになってしまいますので、今ここで申し上げられるのはあくまでも優先度調査委託でお示しした金額でございますけれども……。
【小佐野委員】　いや、市議会できちんと了解を取るためにいろいろと、市議会で了解を取るためにそのくらいの積算はしないといけないのではないですか。建築をするためにこれだけの……。
【事務局】　ですから市議会の今日皆様の方針、改築ということでご承諾していただけましたらば、これから先準備していく訳ですけれども、これから基本的なものについて委員会に諮問、それで答申いただいて、それから基本設計という形に入っていきますけれども、そういうものに入っていかないと金額的な細かいところの積み上げというのは出てきません。
【小佐野委員】　全てという訳ではないですけれど、少なくともこの委員会が終わるまでに金額は提示してもらえるという、そういう話ですよね。そうでないとこの委員会の方針を決められないではないですか。
【事務局】　優先度調査委託でお示ししてある金額でしか、今のところはまだ……。

【小佐野委員】　その金額は要するに建物だけの金額ですよね。その他に引っ越し費用が結構掛かる訳でしょう。電話設備なんかも結構掛かるじゃないですか。新しくした机があるのかないのか分かりませんが、こういう庁舎でも結構ある訳ですね。そういう費用というのはどれくらい掛かるのでしょう。

すぐという訳ではないですよ。これからのスケジュールで示されているのでしょう。

【事務局】　申し上げるとしても、ある程度の概算でしか申し上げられないと思います。細かい内容については基本設計を市民参加をやりながら決めていきます。いろいろな市民を募ってワークショップをやりながら、市民の考え方も取り入れていかないと、なかなか庁舎を作るのもですね、なかなか難しい部分もありますので、その中で細かい基本的な設計ができますので、正確な金額というのはその後でないと積算はできないということだと思います。

【小佐野委員】　わかりました。委員長、この会はどこまでやればいいのですかね。

【中野委員長】　その話に戻ることになるのですけれども、一応耐震的にどういうふうに進めるかというのは決めた訳です。ここから先について基本方針をこの委員会で出すというのはなかなか難しいと思うのです。だから市で今内部で調整されている案について私らがそれを見させていただくと、それで検討してその直したものをワークショップに出すといったようなやり方でないと、私らが全て提案するというのはなかなか難しいと思うのですね。

【事務局】 それではこの次お示しするというこれからのスケジュールなのですけれども、おおよその雑駁なスケジュールというかイメージとしまして、ＳＲＦ工法の仕事が増えてしまいましたがその分はちょっと延びてしまうのですけれども、これからについては今申し上げました、委員会に対して基本的なものについて諮問、答申をいただきましたらば、基本設計に入ってまいります。それで基本設計の段階でパブリックコメント、ワークショップ、市民の皆様から意見をいただいて、それと併せて並行的に委員会を開催して皆様の意見もいただいていくという形で進めていきたいと思います。

【中野委員長】　例えば先ほどちょっとお話しに出た、次回にスケジュール的なことは出てくると、もう１つ例えば今、あとの資料３に関連するのかもしれませんけれども、庁舎に求められる機能といったようなものを皆さんが頭に考えていただいて、それらを含めた案みたいなものが出て来る訳ですよね。それに付加できるもの、例えば教育機関を付加するとか、そういったような案が出てきて、それに対して各委員の方にまず見てもらう。そこで案を出してもらう､といったような進め方でよろしいのでしょうか｡やり方としては。

【事務局】　そうですね。

【中野委員長】　私たちが全てこういう機能を入れてください、こういう施設をつくってくださいというのはなかなか難しいので、そういったものを提案していただいて、この委員会で答えるといったような状況で進めていくというような感じだと思うのですけど、どうでしょうか、小佐野さん。

【小佐野委員】　よく分かりませんが、とにかく我々がいいとか悪いとか、結局この案でいいですねというときに、反対か賛成かができる資料であればいいのですよ。

【中野委員長】　今のような資料が出てくればですね、ご意見が出せるのではないかなとは思いますが、そういう意味合いでこの前、ヴォリューム模型ではなくて、新しい基本計画の案が出てきたらいいのではないですかという話……。

【小佐野委員】　勿論、今回のこの資料もよくまとまっていたし、納得しますよ、これだったら。だから、金額がどれくらいになるのかがね……。
【中野委員長】　金額については、やはり単に耐震補強するだけとようなものも、いろいろとこう加算されてくるので、計画が終わった段階で出たものについてもう１回確認する必要はあるというふうに思いますね。
【小佐野委員】　それから、ペンディングにしたこととか、それからワークショップをやるという話がスケジュールの中に出ていませんけれど、私たち今日初めてここで聞いて……。
【中野委員長】　スケジュールには入っていたと思いますよ。
【武富副市長】　１つだけ、この委員会でどこまでやるのという話がありましたけれども、まずは１番最初の資料で基本計画としてこのような項目をという、そういう資料を出しているのですけれども、庁舎の役割機能とかそういったような大きな方針的なものをまず基本計画としてまとめていただきたいと、それを当初の予定では８月か９月くらいまでには。そこが第１段階で、要するに基本設計に入れるくらいまでの要素が、まずはそういう要素を盛り込みながら基本計画を９月くらいまでにはこの委員会で検討してとりまとめていただきたいと。それを受けて最終的には市で基本計画を作るということになるのですけれども、次の段階になると具体的に何を作るかということになっていきますので、それはもう基本設計に入っていくと思うのです。その基本設計をやる過程で市民参加が入ったりとか、いろいろそういう過程も踏んでいきますから、またその段階でこの委員会の意見も聞きながら基本設計を進めていきたいと、そういうような進み方を想定しておりますので、よろしくお願いしたいと思います。
【中野委員長】　あと７月、８月２回くらいで基本的な意見を吸い上げるということになって……。
【武富副市長】　基本計画の素案のようなものは事務局でまとめて、資料として提示していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。
【中野委員長】　あと委員の方にそれを見ていただいて、おかしいと、こういった何かを付け加えた方がいいというものがあれば、あと２回くらいで検討していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
【池田委員】　技術的なことですから事務局でもし可能であればお願いしたいことは、４番で行く方向で、ＳＲＦ工法で、５年くらいで壊してしまうことが決定している建物を短期的に補強する。万が一その期間に大地震が来た場合に人命が損なわれない程度のお金をかけない補強をしましょうということですよね。だからあまり事例もないし、とても技術的には難しいかもしれませんね、これは。伺っているとＳＲＦ工法というのが見つかったということで、ちょっと決め打ち的にＳＲＦでいくのだと決めて走っておられるように聞こえるのですけれども、これはそういう構造の専門家をコンサルに雇うのでしょうから、あまり決め打ちでＳＲＦでいけということではなくて、大きな言い方ですね。５年ぐらいもつもので、これは構造的に壊れてもいいけれど人命を損なわないという概括的な言い方で、どういう工法があるのか、当然費用も非常に重要ですから、どういう方法があるかというリサーチからやってもらう方が効果的だ、ということだけ申し上げたい。
【中野委員長】　その点については私も懸念するので事務局側の方もよく分かっていると思いますので、これが第１という訳ではないと思いますので、ちょうど見つかったという

ものなので……。
【池田委員】　このタイトルが良くないのではないか。ＳＲＦ工法で決めたみたいな例が、これは１例であって、「５年程度の短期間、万が一のために備える補強を伴う既設庁舎の利用」か。ちょっと長くなってしまうけれど、これ、工法を決めたというふうに見えない、そういう言い方でないと誤解されると思います。念のために。
【中野委員長】　それはかなり重要な点だと思いますので。他に何かございますか。
【武富副市長】　今の点なのですけれども、今回資料１の２ページ目の３で、本館改築までの措置というところに、「本館３階建ては、Ｉｓ値０．２５であり、安全性を確保するため、靭性型補強工事（例示：ＳＲＦ工法）」とこういう表示をしたのですが、この靭性型補強工事と書くこと自体も限定されてしまうのですか、これも止めた方がいいのですか。
【中野委員長】　靭性型補強工事という言い方はちょっと違う意味合いに取られるので、これは変えた方が……。
【武富副市長】　これも検討した方がいいですか、この表現が。これはどういう表現にしたらいいか……。
【池田委員】　技術的なオプションを決め打ちしたような言い方は止めて、こういうことですよと概括的な言い方が、正直で誠実な言い方なのです。
【武富副市長】　それでは検討させていただいてどういう表現にするか変えさせていただきます。
【中野委員長】　そうですね。それは変えた方がいいです。
　ということで今日の大きな議題であります方針的にですね、方針的に④の形で進めていくということで問題がなければ、これで進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。
【各委員】　はい。
【中野委員長】　はい、ありがとうございます。
　それでは次の議題になりますが、（３）庁舎に求められる機能について事務局から説明をお願いします。
【事務局】　それでは議題３についてご説明いたします。５ページの資料３をご覧願います。
　庁舎に求められる機能として４点ほどまとめました。
　庁舎に求められる機能は主に、市民対応のための「窓口機能」、市職員が行政事務等を行う「執務機能」、議員活動の場となる「議会機能」、災害時の拠点となる防災機能の４つに分類することができます。
　①窓口機能といたしまして、市民に分かりやすい案内機能を有し、個人情報やプライバシー保護に配慮した相談窓口や相談室の整備をします。高齢者、車いす利用者などにも配慮した現状と同じ座位の窓口カウンターを設置します。市民の利用度が高い関連窓口の集約配置、また庁舎の分散化の解消による利便性の向上を図ります。
　②執務機能　執務機能は効率的な行政事務が行えるよう事務室、会議室、書庫等の適正な空間を確保し、関係部署の集約化やレイアウトの変更等にも柔軟に対応できる施設整備をします。
　③議会機能　議決機関としての独自性を保つとともに、意思決定を図る場にふさわしい空間整備を行い、誰もが見やすく、聞きやすく、出入りしやすいように整備します。
　④防災機能　市民生活の安全・安心を確保する拠点として、十分な空間を有し、機動的

に対応できる本部機能とともに、今後想定される様々な災害にも対応可能な安全性を確保し、行政機能を維持できるように耐震性を備えた庁舎にします。
　以上でございます。
【中野委員長】　はい、今ご説明いただきましたが、先ほどからも話題になっておりますが、あと２回位をかけてこういった案のようなものを提案していきたいと思っているのですが、これに対して何かご質問とかご意見等がありましたらお伺いしたいのですが。
【福井委員】　機能ということは大事なことなのですけれども、非常に具体的にこういうことをします、こういうことをします、こういうことがありますと書いてありますけれども、大体４つに分かれていますけれども、私が知りたいのは窓口機能といったところにどのくらいのパーセントでスペースを取るのかということを伺ってよろしいでしょうか。窓口機能というところにこのくらいのスペースを取りますよと、あるいは「執務機能」とか、あるいは議会もそうですけれど、全体のあれからしてどの程度のパーセンテージでそこを予定してやっているのかなということをお伺いしたいのですけれども。
【事務局】　今、お示ししているのはあくまでも機能について言っている訳でございまして……。
【福井委員】　機能は分かります、それは。
【事務局】　例えばどういうものにどれくらいの面積を必要とするとか、ということについては基本設計の段階でいろいろなご意見をいただきながら決めていくこととなりますので、窓口にどのくらいの面積というのはお示しできません。あくまでも機能に対しての基本的な考え方をお示ししておりますので。
【中野委員長】　会議が進んでいって最終的にどんなものを配置しなければいけないというのが決まった後で、多分スペース的なものが決まってくるのかとは思いますが、あと２回くらいでどんなものが必要なのかと、どんなものを市庁舎に要求していくのかといったようなことを検討していただければと思います。福井委員がおっしゃったこともかなり重要な話になるので、それは専門家が入って決めいくということになるのだと思いますが、ただし市役所の役割としてどれくらいのスペースが必要だということは最低限決まっているので、そういったようなことについてはお答えできるとは思うのですが。
【福井委員】　今それをどうしても知りたいというのではなくて、普通の家、自分たちが住んでいく家の感覚で言うと、まずそういうことを先に決めるのではないかなと、それから田んぼのことでも　坪いくらみたいな感覚でやるので、それは全然ちがいますが、規模は違いますし、機能も違いますし。それは同じには考えられませんけれども、基本的にそういうふうには考えなくて、こういう、こういう、こういうものがあるからじゃあこれくらいになるのだなと、後から考えるのかなということなのですか。じゃあそれで分かりました。それは考えないと、後で考えますと、そういうことですね。分かりました。
【中野委員長】　他に何かございますか。
【小佐野委員】　基本的なことなのですけれども、この３番の資料は、この委員会で何を決めるのですか。これは今まである庁舎のこういう機能が欲しいということであれば整っているし、整っていない訳ではない、整っていると思うので、改めてこれを提示したというのは何ですか。新しい庁舎にこういうことを入れたいということですか。
【中野委員長】　こういったようなものはとにかく……。
【小佐野委員】　だから、いいかどうかというのも、ここでやるのですか。

【中野委員長】　機能をこういう形で、こういったようなものが必要ですよと。これに対して皆様が各諸団体の代表として、こんなものは必要ない、あるいはもっと他にこんなものが必要があるといったようなものを出していただければ、それを今後基本方針に入れていきましょうと。
【小佐野委員】　これは何回か……。
【中野委員長】　そうです。これから何回も修正していくということです。それと先ほど副市長から出ました第１回の資料ですね。
【武富副市長】　ちょっと済みません。資料の出し方、ちょっと漠然と出しているので、説明が不十分だろうと思います。今まで何回か庁舎の基本理念とか基本方針を出したり、今回機能を出したりしていますけれども、これは基本的な計画、次回あたりで案を示したいとさっき申し上げましたけれども、それの要素になってくるものでございまして、ある程度部分的に議論いただいておこうという意味で出しているものでございますので、最終的にはこれらを取り込んで、耐震化の方針も取り込んだものになると思いますけれども、そういったものを取り込んで基本計画、そういったようなものを案にしていきたいと、それをまたお諮りしたいと思っておりますので､そういう意味でこの資料を出しております。
【中野委員長】　先ほど副市長がおっしゃった庁舎の整備基本計画というのが１枚ぺらっと以前出たと思うのですが、それが必ず前にあって、その後にこれがついてくるといったような形で、どんどんどんどん資料が累積しているような形で毎回出してきているということかもしれないですね。
【事務局】　第２回の時に本当にまとまってぱらっと１枚出させていただきました。それを補足する形でぱらぱらぱらぱら出ているので、なんだか分かりづらくて済みません。
【中野委員長】　だから資料名を統一していただいて、毎回同じ資料名でどんどん変わっていくと。
【事務局】　まとまった１冊の基本計画ができた段階でお示しした方が分かりやすいと思いますので、それができあがった段階で出すような形にしていきます。まさに基本設計をやるのにこの基本計画がすごく重要で、例えば今の機能の話なのですが、この４つだけでいいのですかという議論を是非していただきたいのです。例えばこの４つ以外、市民活動機能が必要ではないのという話になれば、執務をするだけではなくて市民活動をするような部屋を作らなくてはいけないということになりますので、そういう議論をしていただきたいということが重要なので、とりあえずこの４つで事務局としてはいいのではないかと思っているのですけれども……。
【福井委員】　そういうふうにはここに書いていないのですよね。さっきから１項目ごとにこの委員会でやるのやらないのという論をずっとやっている訳ですよ。これは非常におかしいと思う。この委員会で､我々は何をかせられているのか､何をしてはいけないのか、何をしなければいけないのかというのがよく分からないで、ただ項目が出ているだけでこの委員会でやらなくてどうするのですかという話でね。
　それでこれはもしそういうことならば、別に何これ、あれでしょう。重要な意見として取り上げてくださるのならば､これで十分なのか不足なのかというようなあれがないとね。我々はちょっと何と言ったらいいのかな、拡大してしまって限りなく広がっていって、ああいう機能、こういう機能なんて、ちょっと私が考えているのは議会なんていうのは大体何階でやるのだろうか、そんなことを考えていましたけれど……。もし、そういうふうな

機能が、これで十分だというのはないと、絶対にないと。やっぱり費用からみて、スペースからみてここは要らないというのは自ずから出てきますよ。
【事務局】　そういう検討をしたなかで、この４つを提案させていただくと……。
【福井委員】　だから今、何かありますかという話になると、それは求めるね、木によって魚を求めるような話になっちゃう。だから堂々巡りですよ。その都度その都度、この委員会は何やるのですか、何やるのですかという話で、それは最初になければいけない、一番最初の会議でね。これと、これと、これ。その後に関連してこういうもの、ああいうものと出てくるということは分かりますけれどね。１つ１つについてこの委員会は何をやるのですか、どこまでやるのですかと、そういう疑問に思っていたのでは何をしていいんだか分かりません、と私は思います。
【安井委員】　今でもいい意見、お話あったのですけれど、これに関して私からこういうのも参考にさせてもらえるかなと、項目は指定構成部分という感じなのですけれども、例えば庁舎の中に食堂ありますよね。その食堂を作っていただくとか、その食堂に関しては東京都２３区のそれぞれ区役所あたりは皆そうですけれども、最上部分の上にレストランをつくるとか、それは市民が皆使いますよと、そういうのを付けていただくようなそういう機能というのですかね、その辺を追加で入れていただければどうかと。
【中野委員長】　とにかくいろいろな意見を全て出していただいて、それを採用するかしないかは今後決めていくということになるので、大風呂敷かもしれませんが、とにかく今市庁舎に対して思うことを、あと２回くらいについて出し合っていただくといったような方針で進めていきたいと思うのですね。だから、ここに出されたものについて善し悪しを決めるのも大事なのですが、皆さんが市民として日頃思われていることをとにかく出していただこうと。そういったような形で次回以降進めたいと思いますので、もしも今日、今、安井さんが言われたような意見があれば聞きますし、今、突然では無理だということであれば次回以降、２回くらいに分けて話をしていきたいと。ただし元になるものがないとなかなか難しいのではないかということで事務局に一例を出していただくということをさっきお願いしたのです。ですので、いろいろ出してください。
【福井委員】　絶対に必要なものと、大部分が必要でないと、そういうあれがあるべきなのですよ。これはなきゃ駄目だと、首がない人間がいないみたいにね。そういうものと、もしかしてスペースがあって余裕があったらこういうのも欲しいなというものではなくて、そういう場所ですか、人を集めるなり何なりね、そういうものもあってもいいねというような、２段階、３段階でそれで精査していくというような方法でもいいのではないかなと。
【中野委員長】　市庁舎に対する考え方はいろいろ自由ですので、無駄なスペースをいろいろ取り入れている市庁舎がかなりいろいろな形で有名になるとかですね、そういったようなシンボル的なことになるといったこともありますので、そういう意見は活発に言っていただいて、それを採用するかしないかは市民とのワークショップなどを開きながら削っていくといったような委員会のイメージなのですね。
　ちょっと今まで細かすぎました。耐震補強をやるという点で細かすぎたのですが、そういう細かい委員会ではないということを頭に入れて、もっと大きな意味合いを……。細かいことはなかなか決められないので、それは最終的に決めると。
【牟田委員】　今回の委員会は、比較検討をどうするのかということを決めるのではないですか。平屋を壊すのか壊さないのか、そこはどう……。

【中野委員長】　一応前回の時点で、３階建てと平屋は改築の方向に進みますよと、それに対しての補足みたいな形で今日は説明していただいたので、前回までの委員会で３階建てと平屋は改築すると、改築するにあたってどういうふうに建屋を作るとか、建物を使いながらやるかと、そういうようなことを今日決めたいと思いまして、先ほどそれは了承していただいたと。
【牟田委員】　こっちの改築の方でやると、平屋も壊すということですね。
【中野委員長】　そうです。
【戸田委員】　この委員会というのは、最初建物耐震化するために建物を壊すとか壊さないとかだったのですけれど、だんだんだんだんいろんなことが入ってきて、いつまでたったらこれ終わるのかなと、どこの辺まで市役所はこの委員会に対して求めているのかというのは、だんだん分からなくなってきた感じなのですね。
【中野委員長】　最初細かいところから入って、大きなところに入ってきたので、いつも逆ではないかとは感じているのですけれども、ただ最初が決まらないとその先が進まないので、最初細かい委員会になりましたけれども、本来ここからやることが本筋ということですね、というふうに考えていただきたい。それについてスケジュール的なものをもう１回出していただくということで、それで大体感覚を掴んでいただければと思います。
　だからいいのですかね、大きなくくりで考えて。
【事務局】　今回大きな方針がほぼ皆さんにご了解いただきましたので、次回以降は庁舎の本来的な委員会で議論いただくような庁舎の内容ですね、そういうようなものを決めるような方針、計画、その議論をスケジュールとともにお示しさせていただいて、これを入れた方がいいとか、抜いた方がいいとか、そういったようなことを議論していただければ助かります。
【事務局】　おっしゃられたとおりの第１回目の市庁舎の現状と課題というところから入ってきたので、その前段がいろいろあって分かりづらくなっちゃったと思うのですけれども、やっと入り口というか全体のあれが見えてきた感じがいたします。だから前段の説明でかなり現状と課題とか市有地の状況、いろいろの耐震化優先度調査、こんなものいきなり見せられても目が白黒してしまうような代物だったと思うのですけれども、こういうことなので一番費用対効果の高い、この形に何とか皆様の意見、総意という形でいただいた訳ですので、基本線は今、承諾いただいたということで、これからスタートというような感じだと思います。
【中野委員長】　日頃思っていらっしゃる市庁舎に対する不満とか、そういったものを挙げていただければ一番早いのかとは思いますが、そういったものをとにかく取り入れたものにしたいと思います。
【福井委員】　こりゃ大変だわ。（笑い）
【中野委員長】　ちょっと考え方が違うかもしれないですけれど、よろしいですか。
【池田委員】　この資料３が極めて重要な資料だと思うのですね。今までは残すか残さないかという議論をしていたので、それは決まったと。ヴォリュームとしてあんな大きなものをつくる訳ですから、そこにどういう機能を入れるのかという発注者としての、市としての細かい設計に入る前のどんな機能をもたせるのですかという非常に重要な資料だと思います。今回市役所側が非常に難しいのは、全部壊すのではなくて、一部新館と呼ばれるのは残す訳だから、そこと新しくつくったとこと、まあヴォリュームでどのくらいの比率

なのか分かりませんけれども、残す建物に何の機能を引き続き持たせ、新しいのにどこまで持たせるかという、設計事務所に頼むと基本設計というとかなり細かくなりますから、その前段、我々プログラミングというのですけれども、どういう基本機能を持たせるかということを相当議論して、ピシッと決めておくことは極めて重要だと思います。まあ、そのつもりでしょう。

ついては、こうレベルの窓口機能、執務機能といったものの他に、是非配慮すべきキーワードを申し上げたいと思うのですけれども、１つは「ＩＴの機能」ですね。昨日安倍政権が、ＩＴ機能をどういうふうに発展させるか、世界一のＩＴ国家にするのだと言っていましたけれども、いわゆる情報技術ですよね、情報技術というのは市役所の業務の効率化には大いに役に立つはずで、ＩＴの機能をどのように最先端のＩＴ機能を織り込んだ市庁舎にするのかというのは、そういうプロの情報を入れて先進機能を調べて入れていく必要がありますから、こういうどんな機能を入れるのかということのベースとしてＩＴ化というのをどこまでやるのかというのが非常に重要です。

それから言うまでもありませんけれども省エネルギー機能というのは全般的に絶対必要なもので、同時に省エネを取り組む。

それからこの委員会でも何度か小佐野さんも私も申し上げましたけれども、業務の効率化というのは当然ずっと続けていく訳で、現時点において精一杯できる範囲で業務の効率化をここまで取り入れて、省スペースに反映するのだというようなことは盛り込む必要があります。今までどおりの上を山のように持っている仕事のやり方でスペースを積み上げると自ずと今使っている機能プラスアルファで、でかくなると思うのですよ。お金があれば、でかくしてもいいのかもしれませんけれど、できるだけ業務は効率化した上でスペースは最小限のものにするという方向性が当たり前ですけれども必要ですね。

といったような今時点で全体的に関与すべきＩＴ化、省エネ、省スペース、その前提となる業務の効率化というものをどのように想定した新しい機能というものを、今日も残り時間はありませんけれどかなり充実した盛り込むべき機能を示した資料は、出発点、新市庁舎を追加するの当たって出発点として極めて重要な資料となってきますので。

また、市民代表の方を含めて関係者に意見求めたら、山のようにあれもやりたい、これもやりたいと、それで失敗した事例は死屍累々、日本中に沢山ありますから、あまり言いたい放題、やりたい放題はできない。だから意見は聞くものの、叩き台として市役所が適切なコンサルを入れて、必要な可能な叩き台をやはりきちっと出すというのは、初期段階で極めて重要です。そうしないと私の出身のＮＴＴでも失敗事例が山のようにありまして、要するに一般の人というか、社員に　意見を聞くのは大事なのだけれども、勝手なことを言いますからね。思いつきと勝手な言葉を山のように入れて、聞いたら入れなければいけないというようなことになるのですね。収拾がつかなくなりますから、最初の叩き台が非常に重要だと思います。ついては、説得力を持たせるためにも、さっき冒頭に申し上げたＩＴ等もね、説得力のある説明の仕方が含まれた初期提案が極めて重要です。済みません、長くなりました。

【福井委員】　今の話に水を差すようで申し訳ないのですけど、ＩＴ、私も大事だと思います。しかしそれのみでは、発電所みたいになっちゃいますよね。電気消えちゃったら何にもできなくなっちゃって、何が何だか分かんないみたいになっちゃいますんで、全てがそうであっていいのかどうかね。市民を対象に、対象となるのは高学歴をもって仕事をな

さっている方々に対応する人は極めて幼稚な、何というのですかね寝ている人はあまりいなくなりましたけれども、そういう人たちでそういう機械類の操作ができない人が一杯いて、今多分に困っていますよね、あの、自転車も何もこうやりなさいと、それのみではない……。私もそれ賛成です。省エネも賛成しますけれども、もう１つそこに付け加える何かが、安全という意味についてですね、何が起こるか分からない時代ですから、そういうことも是非考慮して欲しいと。まあ、駄目と言う人もいるでしょうけれどね。私はそう思います。要するに皆同じレベルの市民が１０万人もいませんから、その同じレベルの人ばかりいませんので、何割かはそのあれを考慮して欲しいと。

【池田委員】　福井委員のおっしゃるとおりであります。私が申し上げたのは、一部優秀に人だけが使えるＩＴと申し上げたのではなくて、市役所の皆さん及び市民の方々が当然のことながらですけれども、ちゃんと実用的に使える、本当に役に立つＩＴ、そういう意味でございます。

【安井委員】　もう１つなのですけれども、セキュリティ部分、それと情報の取り扱い、こういうのはどうなのですか。

【池田委員】　それも今時なので、情報保護法の適用となるのですから、１万人、来ている人は１万人以上の情報を扱うのですから、それは当然そういうことに配慮する、システム的に。ただセキュリティについては、私の経験だと、セキュリティはどこまでやるかということが基本方針として極めて重要で、軍事要塞みたいに、極端な例ですね、そこまでやらないと駄目だみたいなところがあるので、どこまでやったら市役所として第３者に抗弁できるか、というのは費用が無限に掛かってしまいますから、セキュリティレベルをどこまで設定するかというのはご指摘のとおり最初の段階できちんと議論して、決断して設計に指示しないとね。大事だと思うのです。

【福井委員】　まあ歴史的な資料であっても、１級資料、２級資料とありますから、１級、２級とねランクを付けて決めていく。あった方がいいけれども、なくてもいいというものもあるでしょうしね。

【池田委員】　さっきプログラミングと申し上げたのですけれども、設計に入って基本設計やって、実施設計やって、施工して引き渡されますね、それが５年後。その時にですねファシリティマネジメントを私、専門にやっているのですけれども、非常に重要なまた役に立つキーワードは、「コミッショニング」という言葉なのですけれども、英語で申し訳ない。プログラミングというのは最初に、一番最初にやることなのですね。こういう機能を盛り込んでつくってくださいねと、要するに業者が来て、でそれが本当にできたか、実現できたかということを確認するというプロセスを「コミッショニング」といいます。プログラミングできて一番最初に発注したときに、こういう機能をつくってねといったのがですね、引き渡された時ね、綺麗なのが引き渡されてそれね、まあ茶色の箱だけど、一般のものは何十億かかる。引き渡されたとき外観とか、引き渡された時点ではね、本当には分からないのですよね。指示した機能が本当に実現したかどうかというのは、引き渡しを受けて１年、２年、３年と使っていかないとね、分からないので、それは設計するとき、それから施工を発注するときにね、業者に対してビシッと言う。我々が引き受けた以上、コミッショニングやりますよと、それはね発注書に書いてある。発注した以上、発注した機能で実現できていなかった場合には、補償させますよと。後フォローさせますよと。当然そこは書いておくと、設計者及び施工者に対して極めて有効なプレッシャーになりますか

ら、市役所はちゃんと分かっていますよと、引き渡しを受けた以降もちゃんとプログラミングで最初に発注した機能設計書に書いた事柄が実現していることを確認するということを言い渡すということはですね、真面目に仕事やりますよ。だから極めて有効なのです。使ったお金が有効に生きるということで大事なことです。まあ老婆心ながら申し上げます。

【事務局】　今、池田委員からいただいたことですが、前回の基本方針の中に網羅されている内容がほとんどでございます。今日追加される内容につきましては、各機能の面がということで考えてよろしいかということなのですけれども、ＩＴ機能とか、セキュリティ機能とかを含めてということになる訳ですが、基本方針の中では５項目の中で、省エネとかコンパクトとか、いろいろと事務効率とか謳ってございまして、その表現は網羅されていると今理解したところなのですが、ここで確認して理解したところなのでございますけれども……。

【中野委員長】　だからいろいろ出た意見とかキーワードが毎回ずっと分かるような資料にしていただくといいのではないかと。前回の資料を見るのが大変なので、毎回積み重ねていくというような状況で、おかしい、おかしくないというのはその場で判断できるような資料を出していただければと思います。

【事務局】　もう１つよろしいですか。前回冒頭で説明しました優先度の調査委託の中で、今度の庁舎のヴォリュームでございますけれども、おおよそ延べ面積で７，０００㎡、階数が８階で模型を作ってございますので、その中でいろいろとどうするかということを、庁舎の機能についての振り分けがいろいろと今後議論されるということで、そのヴォリュームについては今言ったとおりでございます。

【中野委員長】　今言った延べ面積と階数についての決定ということですか。

【事務局】　いや、あくまでも優先度調査であれば、そういう形において模型を作ったということをご理解いただきたいということです。

【中野委員長】　これから議論していく上では大きくなったり小さくなったりする可能性はあるということですね。

【池田委員】　既存の面積、壊す面積はいくつですか。

【事務局】　３，０００㎡でご記憶いただければと。

【中野委員長】　３階建てと平屋を含めて３，０００㎡ですか。

【池田委員】　反対するのではないですよ、反対するのではないけれどね、３，０００㎡壊して７，０００㎡建てるという案があって、それは説明つかないよ。何で２．３倍になるのですか。

【中野委員長】　教育が入っただけではそんなにならないですよね。

【池田委員】　何の説明もなく２倍以上にするとあればね、ちょっと不信感を持ちますよ。

【事務局】　庁舎の委託の中で……。もう１回次回でおさらいをさせていただきます。

【中野委員長】　そうですね。

【池田委員】　それは基本設計でこういう機能を盛り込むから２倍になるんですよという説明ならね分かるけどね。いきなり２倍になったというところが分からない。

【事務局】　まあ前回は……。

【中野委員長】　それからちょっと、耐震とからめてそれぞれなかなか理解できなかったのかもしれませんが、どんな部屋が増えるとか、どんな機能が増えるからこういうふうになっているんだという説明があると、それはできるのですか。そこまでは。

【事務局】　とりあえずもう１回、全部資料は出しておりますので、それをもう一回再度これからのものを全部含めて再度説明するということでご理解いただきたいと。
【小佐野委員】　機能のところに戻っていいですか。東北の震災で皆さんよく分かっていると思うのですけれども、土地台帳がなくなってですね、復旧するのが難しくなっているのですよ。住民票もない、あるいは印鑑証明書もない。ここはたぶん津波はまずないので、最初の時にお話ししたと思うのですけれども、火災と水です。スプリンクラーがあれば水が垂れてきて今のように書類が沢山あるとこれはもう滅茶苦茶です。書類があっても見られなくなります。例えばＩＴ機能でコンピューターに入れて、そのコンピューターがスタンドアローンだといけないのですね。パックアップ。これはだから、これとは全く関係なしに、建替えるとは関係なしにやってもらわなければいけない仕事です。
【池田委員】　建替えも絡むのですね、先ほど申し上げたようにね。この委員会の機能でないかもしれないけれど、今ご指摘のところはね、ＩＴ化というのは検討されているでしょうけれども、大きな要素になって絡んでくるかもしれません。
【小佐野委員】　書類がなくなれば会議室も増える、それから新しく例えば公務ができたとしても簡単に立ち上がる。バックアップデータがあれば。そういうことも決めてきちんとやっていただきたいのと。火災を、火を出さないという何かがあれば、一番いいですね。水は対応できると思うのですけれども、火災で火を出さないようなセキュリティができると一番いいのかなと思います。だから防災機能の中に含められるかどうか分かりませんけれども、そういった対策も是非お願いしたいと思います。
【福井委員】　建築のあれは平屋と８階建てというふうにありましたけれども、地下室なんていうのはないようですね。機能的なあれができますので、地下室も３倍も４倍も掛かるという話は聞いていますけれども、一部でもそんな設備が必要かどうかということについても是非検討していただきたい。
【中野委員長】　これは地下シェルター？
【福井委員】　いや、そういうセキュリティのあれが。結局はどういう災害が起こるか分かりませんからね。紙で置いちゃ駄目、じゃあこっちにしましょうといってもそれだけでは安全ではなくて、じぁどういうふうにすれば安全かと。より安全に近いようにね。そういうもので全部じゃなくっても、そういう設備も検討してみてはどうかということです。是非作って欲しいということではありません。そういうことも考えて欲しいかなと。
【中野委員長】　とにかくこれからいろいろキーワード等が出てくると思いますので、それが消えないような書類を作っていただきたい。
【福井委員】　地下室だと３倍も４倍も掛かると思いますけれどね。
【中野委員長】　それでは進め方としては、このような形でもう２回くらい進めていきたいと思いますが。とにかくいろいろなご意見を出していただければというふうに思います。それでは今日のところはこれでおしまいにしたいと思いますが。
　それでは議題４のその他について、事務局からお願いします。
【事務局】　次回の開催につきましては７月１２日、１０時から、場所はこの場所で行います。よろしくお願いいたします。
【中野委員長】　確認ですけれども、資料はあらかじめいただいたものを持ってくるということですね。
【事務局】　お願いします。

【中野委員長】　はい、それでは他に何かございますか。
【塚本委員】　ちょっといいですか。先ほどから防災機能についてお話しが出ているのですけれども、本部機能としては新しくなるからいいと思うのですけれども、出先機関ですね、消防署とかなんかというのはこの委員会では、検討はなしということでいいのですか。
【中野委員長】　いや、どうでしょうか。私が言うより事務局から。
【事務局】　内部の検討会の中で、第２庁舎、消防について検討したのですけれども、消防庁舎についてはこの中に入れない。先ほど申し上げましたけれども、どうしても消防庁舎は１階にありますので、１階から消防車両、救急車両が出動する。またそこと同じ階で市民の方々が入ってくるとクロスしてしまいますので、あと敷地面積的にもちょっと足らないということで、消防庁舎はこの検討からは外させていただきました。
【塚本委員】　それは別途検討するということですか。
【事務局】　消防については、また別途ということです。
【中野委員長】　そういったようにことについては、どうなのでしょう。この委員会では意見は聞いてもよろしいのですね、意見は出していただいて。それで答えを聞くとか、どうなのですか。何か市庁舎に入れたい機能というところがあるかもしれないですよね。そういったようなことについて、市ではこういうふうに考えているというようなお答えをしたいただくことはできると。
【事務局】　そうですね。
【塚本委員】　わかりました。
【中野委員長】　それではよろしいでしょうか。
　それでは平成２５年度第２回四街道市庁舎整備検討委員会をこれで終了します。どうもお疲れさまでした。

（以上）